施設概要

（令和４年４月１日現在）

<table>
<tr><td colspan="2">施設名

白井コミュニティセンター</td><td colspan="2">開館時間
午前９時～午後９時</td></tr>
<tr><td>所在地</td><td>〒２７０－１４２２
白井市復１４５８－１</td><td>併設施設</td><td>白井児童館</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td>０４７－４９１－１５０５</td><td>FAX</td><td>０４７－４９１－１５０３</td></tr>
<tr><td>メール</td><td colspan="3">mail@shiroi-com10.com</td></tr>
<tr><td>休館日</td><td>火曜日・国民の休日
１２月２９日～翌年１月３日</td><td>駐車場</td><td>敷地内１７台（内、身障者１台）
第２駐車場３０台程度</td></tr>
<tr><td>職員構成
３０年４月現在</td><td colspan="3">センター長１名　事務職１名　（非）事務職３名　児童厚生員１名　（非）児童厚生員３名
（非）夜間管理２名　（非）学習支援者１名　（非）清掃員１名　　合計１３名</td></tr>
<tr><td>貸出施設</td><td colspan="3">１時間あたりの施設使用料（社会教育認定団体は２分の１）
<table>
<tr><th>施設名</th><th>定員</th><th>９：００～２１：００</th><th>付帯設備</th></tr>
<tr><td>和室１</td><td>１８　名</td><td rowspan="2">２５０　円</td><td rowspan="2">座卓・座布団</td></tr>
<tr><td>和室２</td><td>１８　名</td></tr>
<tr><td>調理室</td><td>２４　名</td><td>７２０　円</td><td>テーブル４台・椅子２４脚・調理用具一式・ホワイトボード</td></tr>
<tr><td>会議室１</td><td>３０　名</td><td rowspan="2">３５０　円</td><td rowspan="2">机・椅子・音響設備・ホワイトボード・可動式スクリーン（会議２）・可動式演台</td></tr>
<tr><td>会議室２</td><td>５０　名</td></tr>
<tr><td>工芸室</td><td>１２　名</td><td>３５０　円</td><td>机３台・椅子１８脚・ホワイトボード</td></tr>
<tr><td>レクリエーションホール</td><td>２００　名</td><td>９７０　円</td><td>卓球台４台・音響設備・可動式舞台６台・バドミントン用支柱・得点板・卓球用ネット・バドミントン用ネット・可動式ホワイトボード</td></tr>
</table>
陶芸窯使用料
<table>
<tr><td>陶芸窯</td><td>1回の使用につき
３，７９０　円</td><td>棚板・支柱</td></tr>
</table>
＊営利目的使用の場合は、上記料金の３倍となります。</td></tr>
<tr><td>その他施設</td><td colspan="3">２色刷印刷機、アートスペース１階・２階</td></tr>
<tr><td>貸し出し可能備品</td><td colspan="3">館内限定：ＴＶ・プロジェクター・ＤＶＤブルーレイプレイヤー・延長コード
ＣＤラジカセ・プロジェクターワゴン・陶芸用具一式・可動式ホワイトボード</td></tr>
</table>

令和3年度　公民館等団体別利用状況
（白井コミュニティセンター）

種別	青少年		成人		女性		高齢者		その他		個人		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	10	130	71	661	2	13	3	10	47	459	20	115	153	1,388
5	10	206	70	672	2	15	6	23	37	265	18	86	143	1,267
6	10	218	85	683	2	10	4	11	37	402	17	35	155	1,359
7	8	203	77	689	2	12	0	0	39	373	17	112	143	1,389
8	9	175	46	334	1	8	3	11	19	146	16	56	94	730
9	20	327	40	306	0	0	4	17	27	188	16	45	107	883
10	11	255	88	817	2	15	5	23	32	351	16	51	154	1,512
11	9	154	86	658	2	15	5	24	17	140	13	44	132	1,035
12	11	253	78	649	1	8	0	0	20	181	7	17	117	1,108
1	9	111	82	636	2	15	0	0	21	301	5	12	119	1,075
2	9	115	68	568	0	0	0	0	23	199	17	81	117	963
3	13	226	101	973	2	13	0	0	18	248	19	69	153	1,529
合計	129	2,373	892	7,646	18	124	30	119	337	3,253	181	723	1,587	14,238

令和3年度部屋別利用件数・利用人数

部屋名	利用件数（件）	利用人数（人）	年間利用率（%）
会議室1．2	79	1,524	6.9
会議室1	115	837	11.1
会議室2	204	1,873	20.8
和室1．2	147	940	9.6
和室1	81	278	4.5
和室2	33	184	3.2
調理室	58	141	2.3
工芸室	127	678	9
多目的ホール	743	7,783	47.9
合　　計	1,587	14,238	

令和３年度　白井コミュニティセンター　事業報告

●白井市が目指す将来像（第５次総合計画基本構想から）

「ときめきと　みどりあふれる　快活都市」

●目指す将来像を実現するために（第５次総合計画前期基本計画から抜粋）

戦略１「若い世代定住プロジェクト」

・ゆとりある暮らしを支えるまちづくり

・子育てしたくなるまちづくり

戦略２「みどり活用プロジェクト」

・みどりが価値を生み出すまちづくり

・みどりがつながるまちづくり

戦略３「拠点創造プロジェクト」

・地域拠点がにぎわうまちづくり

・拠点がつながるまちづくり

これらのプロジェクト（まちづくり）を実現するため、①「つどう」②「まなぶ」③「むすぶ」④「つくる」⑤「さがす」の公民館の代表的な５つの機能を生かした事業展開を行いました。

１．運営方針

令和3年度　白井コミュニティセンター　運営方針

（１）全体の運営方針

テーマ：出会う場所（知ってみよう参加しよう）

利用者の平等な利用とサービス向上に努め、効率的な管理運営を行う。

併せて地域の拠点として、市民と行政と団体とのコーディネーターの役割を担い、「わがまち白井」を合い言葉とし、まちづくりに参加・協働する。

課題に対しては、アンケートや利用団体連絡協議会等で話を伺いながら、センター内で検討し、少しでも参加者を増やすよう努めます。

（２）分野別方針

	運営目標
市民の連帯意識の向上（１）	①地域の拠点として市民交流や世代間交流を推進する ②市民や自治会等コミュニティセンター事業へ施設提供を図る ③利用団体の発表の場を推進する ④地域文化を知り、地域に愛着を持てる意識づくり
地域コミュニティの活性化（２）	①市民の地域活動育成を推進する ②拠点として地域住民の利用を推進する ③地域文化・食文化を推進する ④市民団体や市と連絡調整しコミュニティを図る
趣味や生きがいづくりの向上（３）	①陶芸窯・アートスペースの利用を促進する ②各種スポーツを推進する ③趣味や生きがいづくりを推進する ④心豊かで、穏やかな生活を送るきっかけを作る

（3）令和３年度　重点に実施した項目（講座・事業など）

地域交流・世代間交流文化交流に力を入れ、日常生活を豊かにする

２．講座等実施報告

（1）学習講座事業

対象	学級・講座名		回数	参加人数
市民の意識の向上を図る事業（1）	「今井の桜保全プロジェクト」	①②	4 回	96 人
	男女共同参画事業共催 「私にもできる防災・減災」	①②	1 回	17 人
	作ってみよう！ マイナンバーカード	④	1 回	（作成7人）参加3 人
	日本の文化 ～お琴を体験しよう～	①④	3 回	20 人
	コミセンフェスタ実行委員会	①②③④	中止	感染者予防対策の為中止
	コミセンフェスタ（児童館共催）	①②③④	中止	感染者予防対策の為中止
地域コミュニティ活性化を図る事業（2）	ティーサロン（地区社協共催）	①②④	中止	感染者予防対策の為中止
	利用団体連絡会	①②	中止	感染者予防対策の為中止
	美肌講座	①②	中止	感染者予防対策の為中止
	今、知ってほしい！ ～親子で学ぶ～プログラミング講座（児童館共催）	①④	4 回	17組35 人
	白井の食材講座	①③	中止	感染者予防対策の為中止
	社会問題を～プログラミングで解決しよう～素敵な出逢いを～	①④	6 回	20 人
趣味や生きがいづくりの向上（3）	はがきサイズで楽しむ水彩画	③	6 回	59 人
	季節を彩る和菓子づくり	①③	中止	感染者予防対策の為中止
	クリスマスリースづくり （直径25cm）	③④	1 回	9 人
	～季節野菜でつくる～ はじめての「ベジブーケ」	①③	中止	感染者予防対策の為中止
	スマートフォン講座	③④	2 回	19 人
	運動会で1番になる方法親子で楽しむ運動遊び	③④	1 回	9組18 人
	フラワーアレンジメント教室	③④	1 回	5 人

（2）情報の提供

・コミュニティセンターで実施する事業の情報提供

（広報しろい・ホームページ・ブログ・フェイスブック・インスタグラム・コミセン通信・市内公共施設にポスター掲示・チラシ配布）

・コミセン通信を白井第一小学校、白井中学校、白井保育園、ひまわり保育園から各家庭に配布

・コミセン通信を近隣住宅配布、白井・下長殿自治会の会員数を各班長に配布、近隣商店に設置

（３）施設の提供

・利用者に平等・公平な施設の利用促進、貸館業務の充実

・地域のコミュニティの核となる場所の提供

（４）その他　後援事業

・春のそろばん祭り（４月）令和3年度コロナウィルス感染症防止のため中止

・夏のそろばん祭り（８月）令和3年度コロナウィルス感染症防止のため中止

（５）行事名の変更

・映画観賞会⇒日本の伝統文化～お琴を体験しよう～

・ごみとリサイクル⇒「私にもできる防災・減災」

・着付け講座⇒フラワーアレンジメント教室

・第10回コミセンフェスタ⇒作ってみよう！マイナンバーカード

・第5回ワーキング・キッズ・アドベンチャー⇒プログラミング教室（全4回）

・第9回街コン⇒社会問題をプログラミングで解決しよう！（全6回）

事業活動

事業名	今井の桜保全プロジェクト		
対　象	市内在住在勤者一般		
参加人数	96人		
事業の課題と目標 課　題 ・「今井の桜」という市内桜の名所にもかかわらず、老朽化・樹木の病気が進み元気な木が少なくなっている こと。 ・台風・集中豪雨などで名内川が氾濫することはあまり知られていない。 ・学区内外の児童生徒や若い世代に知られていない。 目　標 ・今井の桜の現状を広く市民や近隣の人に知ってもらうこと。 ・原風景を後世に残すことを考えるきっかけづくり。			
期　間	令和3年4月1日～令和4年3月31日	回　数	4回
場　所	今井の桜並木（名内川・金山落し）		
事業参加者への配慮等 ・コロナ過の中、体温計や消毒液を用意してソーシャルディスタンスをお願いしながらごみ拾いをした。 ・環境課で数回打合せをし、参加人数や当日のスケジュールなどを話し合った。 ・安全のために各自で現地に集合した。 ・川に落ちないように注意を市、親と一緒に心を配った。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・様々な生き物が生息していることや、環境保全の大切さを感じることができた。 ・親子で環境保全について考えるきっかけ作りができた。 ・今井の桜の今後やごみの放置や川の氾濫という問題があることを知ってもらうことができた。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	9月25日	金山落（今井の桜並木・名内川）の生き物観察。参加者が「たも網」を川に仕掛ける。次に水路にいる生き物を探す。仕掛けを外し、取れた生き物別に分ける。講師から生き物について説明を受ける。最後に桜並木の現状について話をして、講座を通して環境に対する子供達の取組のきっかけとする。参加者34名	金山落（名内川）の生き物を通して関心を持ってもらい、今井の桜並木の現状を知ってもらうこと。
2	9月28日	生活介護事業所「きらり」で生産した花ポットを子どもたちやスタッフと花壇に植える。参加者4名	花を通じて地域との交流を図る。
3	12月12日	市民に、金山落の土地改良事業の進捗状況を説明し、今井の桜並木の存続方法について関心を持ってもらい、落ちているごみを拾う。手賀沼流域の各地で繁茂している特定外来生物のﾅｶﾞｴﾂﾙﾉｹﾞｲﾄｳの駆除を行う。参加者58名	今井の桜並木を通して、環境を守る大変さを感じてもらい今後の個人個人の取組に生かしてもらう。
4	1月21日 ~31日	白井環境フォーラムへ活動を展示。生き物観察会とクリーンデイの活動を展示した。	環境保全に興味や関心を持ってもらうこと。

事業活動

事業名	「私にもできる防災・減災」男女共同参画事業との共催		
対　象	市内在住在勤一般		
参加人数	17人		
事業の課題と目標 課　題 ・最近地震やゲリラ豪雨が多く、防災への取組が急務になっていいる。 ・災害時に何が必要なのかを知ること。 ・避難所への対応について。 目　標 ・地域における男女共同参画の実現を目指す。 ・今すぐできることをやってみる。 ・自宅で非常持ち出し品の確認など。			
期　間	令和4年2月19日	回　数	1回
場　所	会議室1・2		
事業参加者への配慮等 ・参加者には防災グッズの体験をしてもらい、準備の大切さを知ること。 ・非常時の持ち出し袋が実際どのくらいの重さになるか、背負って体験してもらう。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・参加者は防災・減災について日頃から関心がある方が多くいらした。 ・色々な質問がでた。 ・アンケートではとっても分かり易く、ためになる講座との声が多かった。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	2月19日	私たちの住む白井市には様々な人が暮らしています。立場が違えば暮らしの中で必要なものや困ることも違ってきます。いざという時に備えて多様な視点を取り入れた安心できる防災への取組について学ぶ。参加者17人	減災防災を通して、地域における男女共同参画を目指す。

事業活動

事業名	「つくってみよう！マイナンバーカード」白井なるほど講座と出張講座		
対　象	市内在住者		
参加人数	3人（作成7人）		
事業の課題と目標 課　題 ・マイナンバー制度について理解不足。 ・マイナンバーの利便性や不安材料を聞く。 目　標 ・マイナンバーカードの申請方法やメリットについて学ぶ。 ・身分証明書にもなる顔写真付きのICカードになることを知る。 ・セキュリティについて不安に思うことを確認すること。			
期　間	令和4年3月12日	回　数	1回
場　所	会議室１・２		
事業参加者への配慮等 ・講師と入念な打ち合わせをし、当日の作業をスムーズに行えるようにした。 ・先ずは担当職員が講師と何度も打合せを行った。 ・参加者に必要書類を用意し、申込時に丁寧に説明をして渡した。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・作成7人分の書類も無事渡すことができた。 ・マイナンバーカードのセキュリティに対して、理解が深まった。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	2月19日	マイナンバーって何？マイナンバーカードって何？いつまで使えるの？、何に使えるの？マイナポイントって何？今後はどうなるの？セキュリティは安全なの？等々のことについて、詳しく分かり易く講師が話した。	マイナンバーカードの取得者を増やすこと。マイナンバーについて理解すること。

事業活動

事業名	日本の伝統文化~お琴を体験しよう～		
対　象	市内在住・在勤一般		
参加人数	20人		
事業の課題と目標 課　題 ・お琴に触れる機会が少ない。 ・日本の伝統文化～琴～を知らない。 目　標 ・日本の伝統文化～琴～の音色を肌に感じてもらう。			
期　間	令和3年4月10日・17日・24日	回　数	3回
場　所	多目的ホール		
事業参加者への配慮等 ・しろい生涯学習人財バンクの講師をお願いした。 ・講師と打合せをし、お琴の搬送やコロナ過の中での演奏人数などディスタンス等も含めて準備した。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・講師が一人一人丁寧に指導していただいた結果、最終日には演奏会をすることができた。 ・伝統文化に興味を持ってもらい、続けたいという方も出てきた。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	4月10火	お琴の組み立てから片付けまで全てを体験する。 参加者7人	日本の伝統文化に触れて興味を持ってもらうこと。
2	4月17日	演奏の練習と分かり易い説明。参加者７人	お琴について解らないことを講師に教えてもらうこと。
3	4月24日	集大成として演奏会を開いた。参加者6人	参加された人たちは出来栄えにびっくりしていた。琴に触れ実際に一曲弾けるようになった。

事業活動

事業名	今、知ってほしい！～親子で学ぶ～プログラミング講座（児童館共催）		
対　象	市内在住の小学生親子		
参加人数	１７組３５人		
事業の課題と目標 課　題 ・小学校でプログラミングの授業が始まっている。 ・親がプログラミングについて解らない。 目　標 ・親子で理解をしてもらい役立ててもらうこと。			
期　間	5月16日・30日・6月6日・20日	回　数	4回
場　所	会議室１・２		
事業参加者への配慮等 ・初めての講座でしたので講師と何度も打合せをした。 ・小学生を対象としているので1年生と6年生ではどうするかなど事前に配慮した。 ・職員にも知ってもらう為、担当者を毎回変えた。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・アンケートでは分かり易く説明したので喜んでいた。 ・市の教育委員会からも見学に来た。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	5月16日	親子で1つのパソコンを使用し、子供がパソコンを使ってプログラミングを習う。途中、親は別の部屋に移りプログラミングについての話を聞き、解らないことを質問する。参加者3家族５人計８人	プログラミングを理解してもらうこと。
2	5月30日	子供がパソコンを使用し、プログラミングを体験する。ゲーム制作やロボットの色変更・動作指示等、実践を通してプログラミングの仕組みや楽しさを学ぶ。参加者5家族5人計10人	子どもの発想を重視した講座展開。
3	6月6日	簡単なゲームを動かすプログラミング体験で、子供の心をつかみ、次に自動車の形をしたロボットの色を変えたり色々な動きをプログラミングしていった。参加者5家族5人計10人・見学者１人	なぜプログラミングが必須項目になるのかを知る。
4	6月20日	今回は親への講義はなく子供たちの指導時間を長くとった。参加者3家族4人計7人	プログラミングを理解してもらうこと。

事業活動

事業名	社会問題をプログラミングで解決しよう！全6回		
対　象	市内在住の３～6年生		
参加人数	20人		
事業の課題と目標 課　題 ・SDGｓとは？ ・プログラミングとは？ 目　標 ・持続可能な開発目標をしる。 ・自分で何ができるかを知る。 ・プログラミングを使いSDGｓに関心を持ってもらうこと。			
期　間	令和3年12月５・19日・令和4年1月16・30日・2月６・20日	回　数	6回
場　所	会議室１・２		
事業参加者への配慮等 ・子供たちの作りたい作品はレベルが高かったが出来る限り、満足できる作品になるように指導した。 ・講師との打ち合わせでは子供達に分かり易くお願いした。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・最終回の作品発表会では、自分の作品を堂々と発表していた。 ・発表会は家族に参加してもらった。とても良いできに驚いていた。 ・しろいまっちから取材に来ていた。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	12月5日	SDGｓとは？を学び、プログラミング体験をする。参加者４人	SDGｓとは何かから関心のあることを選ぶ。
2	12月19日	子供達一人一人がテーマを設定し作品をつくる。参加者４人	関心のあるSDGｓを選ぶ。
3	1月16日	子供達一人一人がテーマを設定し作品をつくる。参加者３人	関心のあるSDGｓを選ぶ。
4	1月30日	子供達一人一人がテーマを設定し作品をつくる。参加者３人	関心のあるSDGｓを選ぶ。
5	2月6日	子供達一人一人がテーマを設定し作品をつくる。参加者３人	関心のあるSDGｓを選ぶ。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	事業のねらい
6	2月20日	作品の発表参加者3人	自分で作成したプログラミングを発表する。

事業活動

事業名	はがきサイズで楽しむ水彩画（全6回）		
対　象	市内在住在勤一般		
参加人数	59人		
事業の課題と目標 課　題 ・絵を教えてくれるところが少ない。 ・地域の人と交流する場が少ない。 目　標 ・参加者の交流の場とする。 ・絵を通して趣味を広げる。			
期　間	7月14・28日、8月11・25日、9月8・22日	回　数	6回
場　所	会議室２		
事業参加者への配慮等 ・講師との入念な打ち合わせをして準備をした。 ・マスクやソーシャルディスタンスを心掛けるよう参加者にお願いした。 ・楽しく学べるよう配慮した。 ・絵手紙ではなく「はがき絵」という少し写実的に描くジャンルに挑戦してみた。 ・道具を共有しないように気を付けた。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・スケッチブックに1枚づつ絵が増えていくのもコレクション感覚で楽しそうでした。 ・好きなことや得意なことに取り組んで人生の生きがいを感じたようでした。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	7月14日	基本的な画材の使い方、立体感や影のつけ方。参加者10人	趣味を広げ、生活を豊かにする。
2	7月28日	初回よりも複雑な形のモチーフを如何に立体的に描くかを学ぶ。参加者10人	趣味を広げ、生活を豊かにする。
3	8月11日	貝をよく観察して正確なデッサンを学ぶ。参加者10人	趣味を広げ、生活を豊かにする。
4	8月25日	ガラスの質感の描き方と正確なデッサンの取り方を学ぶ。参加者10人	趣味を広げ、生活を豊かにする。
5	9月8日	微妙な中間色の作り方、量感の出し方を学ぶ。参加者10人	趣味を広げ、生活を豊かにする。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	事業のねらい
6	9月22日	植物の形の捉え方、絵具の性質を生かしてみずみずしく描くことを学ぶ。参加者9人	趣味を広げ、生活を豊かにする。

事業活動

事業名	クリスマスリースづくり		
対　象	市内在住在勤一般		
参加人数	9人		
事業の課題と目標 課　題 ・コロナ過で集まることができない。 ・家族で楽しむには？ 目　標 ・可愛らしさと温かみを感じる手つくりリースでお家クリスマスを楽しむ。			
期　間	令和3年11月19日	回　数	1回
場　所	会議室1・2		
事業参加者への配慮等 ・講師と何度も準備のため打ち合わせをした。 ・マスクやソーシャルディスタンスに気を付け楽しんでもらった。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・季節的にとても良い講座だと喜んでくれた。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	11月19日	直径25ｃｍのクリスマスリースを作成した。参加者9人	地域交流のきっかけづくり。

事業活動

事業名	スマートフォン講座（全2回）		
対　象	市内在住在勤一般		
参加人数	19人		
事業の課題と目標 課　題 ・スマホを持っているが使い方がわからない。 目　標 ・使い方を覚える。 ・解らないことを教えてもらう。			
期　間	令和3年10月6・21日	回　数	2回
場　所	会議室１・２		
事業参加者への配慮等 ・講師とどうゆう取り組みをするか打合せをした。 ・コロナ禍の中、マスクやソーシャルディスタンスに気を配った。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・手元の資料とスクリーンで拡大してたので分かり易かったようだ。 ・何度も何度も繰り返し復習するので覚えやすい環境だった。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	10月6日	スマートフォンの使い方を1から学ぶ。参加者10人	スマートフォンを知ってもらい日々の生活に役立たせること。
2	10月21日	初心者を対象とした講座の為、疑問点や問題点を質問できる講座にした。参加者9人	スマートフォンを知ってもらい日々の生活に役立たせること。

事業活動

事業名	運動会で1番になる方法（親子で楽しむ運動遊び）		
対　象	市内小学１・２年生親子		
参加人数	9組18人		
事業の課題と目標 課　題 ・運動会で1番になりたい。 ・どうしたら速く走れるのかわからない。 目　標 ・早く走れるようになるためのコツを教わり、親子で挑戦する。			
期　間	令和3年7月24日	回　数	1回
場　所	多目的ホール		
事業参加者への配慮等 ・熱中症など体調不良の保護者、子供がいないか、参加者から目を離さないよう心掛けた。 ・30分に1回は水分補給の時間をつくった。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・子供たちは講師に教わりながら一生懸命に挑戦していた。 ・保護者も子供ができないところを教えながら、親子の会話・触れ合う時間の大切さを感じていただけた。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	7月24日	「どうしたら速く走れるのか」を子どもと一緒に学ぶ。参加者9組18人	親子の会話・触れ合い、そして一緒に挑戦する大切さを感じること。

事業活動

事業名	フラワーアレンジメント教室		
対　象	市内在住在勤一般		
参加人数	5人		
事業の課題と目標 課　題 ・コロナ禍の中、出る機会が少ない。 目　標 ・バレンタインデーに手作りのフラワーアレンジメントを送る。 ・花に触れ心を豊かにする。			
期　間	令和4年2月4日	回　数	1回
場　所	工芸室		
事業参加者への配慮等 ・コロナ禍で参加人数を少なくした。 ・マスクやソーシャルディスタンスに気を配っていた。 ・初めての方に教えるにあたり、講師と入念な打ち合わせをした。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・参加人数を少なくしたことで個別に指導ができ、参加者が質問しやすかった。 ・大変喜ばれた。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	2月4日	講師が用意した草花を個別に分け、好きなものを使いアレンジメントデザインの基本である「ラウンド」で仕上げる。参加者5人	生活に生かせるように学ぶ。